

とくとtalk

徳大広報 [とくと〜く]

No.112

The university of
tokushima
public relation's
magazine

JULY
2003

特集/対談

地域は大学に 何を求めているか、 大学は地域に 何ができるか

最先端研究探訪/農場 和彦総合科学部助教授

人々は戦争で殺され続けていくのか

研究室へようこそ

玉置俊晃教授研究室/井澤有紀

徳島大学に乾杯/藤原 靖

先輩に続け/鳥取 桂

サークル紹介

蔵本剣道部

Health Care/早瀬純子

リニューアル! 保健管理センター

海外体験記/米国コロラド大学

ボルダー校を訪れて/緒方広明

What's happening?

Sandra Jacqueline Lock

著書紹介

根本尚夫

『Latest Frontiers of Organic Synthesis』

矢野米雄

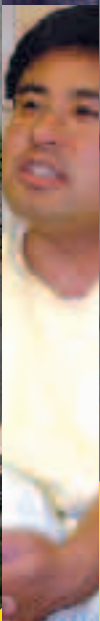
『教育システム情報ハンドブック』

質問・要望

徳大ニュース

行事予定

新聞報道にみる徳島大学



徳大広報[とくと〜く]

No.112

発行: 徳島大学広報委員会
徳島市新蔵町2-24 〒770-8501
Tel: 088-656-7021
Fax: 088-656-9965
E-mail: koho@jim.tokushima-u.ac.jp
homepage: http://www.tokushima-u.ac.jp

発行日: 2003年[平成15年]7月1日
印刷: 徳島県教育印刷株式会社

新聞報道にみる徳島大学

2003.3.1~5.31

- 知的クラスター創成 (2.22徳島)
産学官連携し新産業、県を実施地域指定 徳大核にタンパク研究
- 徳島大全部で教官任期制 (2.22徳島)
4月から教授10年、助教授7年
- 飛び級第1号一足早く社会へ (2.24徳島)
徳島大大学院南口さん 学部・大学院5年でクリア
- 徳大授業高校生に開放 (2.28読売、徳島、朝日、4.8徳島)
来年度から医学など3学部で27科目聴講生扱い
- 高校生よ最大の素数に挑め (3.6朝日)
徳島大森井教授が構想 まず100万桁目標
- 血小板培養装置を開発 (3.8徳島、日経)
徳大など産学連携グループ7月にもベンチャー設立
- 県内自治体の情報ネットワーク6割安全性に欠陥 (3.9徳島)
個人情報流出の恐れ 徳大・鳴教大が調査
- 文化庁の舞台芸術創作奨励賞宮澤徳大教授が佳作 (3.14徳島)
コンピュータ使い作曲「トロンボーンと管弦楽のための協奏曲」
- 徳大総合科学部生活環境学教室色彩検定に全員合格 (3.26徳島)
ファッションコーディネイト色彩能力検定で合格率100%達成
- 徳大医学部に新講座 (4.1徳島)
高次脳神経診療部を組織替えし四国唯一の神経内科学講座に
- 企業との実用化研究加速 (4.16日経)
徳大インキュベーション棟を建設、6月に稼働
- 徳大敷地から鍛冶遺構出土 (4.15徳島、4.16読売)
高い鉄加工技術裏付け 弥生期本県勢力近畿・九州と同等
- 糖尿病関連7遺伝子徳大グループが発見 (4.17徳島)
ゲノム機能研究センターの研究グループ国際会議で6月報告
- 徳大大学院新設専攻10人が入学 (4.21徳島)
人間・自然環境研究科臨床心理学専攻の入学式が21日にあった
- 林徳大教授[歯学部]が受賞 (4.23徳島)
リウマチの独創的研究者に贈る医学賞 中四国初
- ボツリヌス毒素有効成分分離 (4.23読売)
徳島大などのグループ脳性麻痺治療など期待
- 徳大グループ医療機器点検システム開発 (4.24徳島)
故障情報など管理、チェック項目機種ごとに表示
- ALSの障害進行抑止 (5.13徳島)
物質メチルコバラミンを投与 徳大神経内科グループ確認
- 教官と企業、起業へ共同研究拠点施設が完成 (5.17徳島)
徳大支援組織近く設置、来月から利用
- 徳島大今井助教授 黒鉛炉の突沸抑制 (5.22日刊工業)
水道水中の鉛低濃度も素早く測定
- 徳大ネットの公開授業始まる (5.29読売)
全国的にも珍しいインターネットを利用した公開講座が始まった

とくとtalk

編集後記・・・西村美東士

大学が市民の側に
二方向的にサービースするだけでは古い。
今後は、逆に、市民からボランティアとして
大学に関わっていただいたり、
大学と市民が協力しあって何かをしりやることが
必要ではないか。
特集では、そんな思いから、
「地域との双方の関係」をめざし、
三人の徳大出身者に
地域活動の場からの話を伺いました。
徳島大学の地域貢献活動は
高い評価を受けています。
さらにこれを発展させるためには、
このような新しい展開が必要なのだ、
取材によって再確認することができました。
しかも、そういう活動が
「オープンな明るい心」で行われる
楽しい活動であると感じさせられたのは
大学人としてうれしいことでした。

Head Line